

税は僕らの未来を守る。

島田市立金谷中学校 3年 秋山 泰庸

今年の梅雨は、とくに激しい雨が続いた。夜中に大きな大雨と雷鳴が聞こえると、身の危険を感じた。そして恐れていたことが起きた。大井川の堤防の一部が崩れたのだ。しかし大事にはいたらなかった。なぜならば、すぐにテトラポットを置き堤防を補強してくれたからだ。僕の家は堤防から 100mほどの地点にある。もしも、決壊していたら僕の家も最上川周辺の家のようになっていたのだろう。このことをきっかけに、堤防は、誰が管理しているのかを調べてみようと思った。

大井川について調べていくと、大井川は、一級河川であり、国が管理していることがわかった。また、今回の堤防の応急復旧は、国土交通省静岡河川事務所が行ったということがわかった。現場を見るとかなりの数のテトラポットが置いてあった。僕もふくめて、かなりの人がこれを見て安心したのだろうと思った。

また、これだけではなく、H15年の台風10号の大洪水の他にも、度々氾濫を起こす大井川。さらに最近頻発する50年に一度の豪雨災害を防ぐために平成の大改修と呼ばれる牛尾山の開削が行われた。僕が調べた資料によると、この事業を行うことにより川周辺の浸水予想水位が4m下がると言われている。この公共事業は、国が78億円という巨額な、工事費を使って行った。そしてこの78億円はもちろん税金だ。僕にとって、78億円は途方もない金額だ。しかしこのお金で、今回の豪雨のたくさんの人の命が救われたと僕は感じた。

去年の台風19号も忘れられない。島田市に避難準備情報が出された。大雨により大井川が氾濫することを恐れた僕たちは、牧之原にある避難所に行った。僕がそこで見たのは、温かい毛布と多くの災害備蓄品だった。これらも島田市に納められた地方税によって、用意されたのだと思う。

僕は、以前社会科の授業でハザードマップを見たことがある。この金谷地区には、大井川の氾濫以外にも大雨による土砂崩れの被害が心配される地区が多く見られた。このような災害を防ぐために県が行っている事業は森林づくりだ。森林の荒廃により起こる山地災害の防止をし「森の力」を回復させるために行われている。森林を整備するために毎年9億5000万円の森林づくり県民税が使われている。この事業は15年間限定で、効果しだいで再検討される。令和2年と今年までの事業とされているが、僕は、もっと継続してほしいと思っている。なぜならこれは僕たちの安全と未来を守ることにつながるからだ。

今まで僕は税金は、負担だと思っていた。しかし、今回自分の身の周りを見回してみると、税によって僕たちの安全が守られることがわかった。税を納める意味や税の働きを知ることができたことは、これから働き始める僕たちにとって、大きな意味をもつ。だから、今後も税について考えていきたい。